

菅沼 文乃

南山大学大学院人間文化研究科人類学専攻 博士後期課程

「高齢者福祉」「地域共同体」「高齢者」の間にある福祉意識の“すれ” — 「長寿の島」  
沖縄高齢者の生活調査から —

本研究は、沖縄県那覇市辻地域のデイサービスにおける調査から、依然、研究上で争点として浮上していない利用者の期待や施策側、利用者側両者がもつ問題意識を拾い上げ、現代沖縄都市部の高齢者福祉の在り方を提示する試みである。この目的を達成するに当たり、本研究では人類学的手法である聞き取り調査を中心とした調査研究を行なった。

調査結果からは、利用者個人のニーズを把握するための、行政と個人との垣根を超えた対話の場が必要とされていることがわかった。その一例が民生委員の活動である。政策と地域住民との間に位置する民生委員は、そのポジションから、行政のみでは不十分な、高齢者の生活実態を把握の役割を担っている。また、都市部と島嶼部での事例の比較から、参加者が利用したいと思う、そして提供するべきサービスの形が異なることも、利用者側の視点を追うことでわかった。このような、利用者の目線からサービスを眺め、社会参加意識を向上させる方法のさらなる模索が必要であることが示唆された。